

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	全職員地域密着型サービスの役割を考えながら「やわらかな空間の中で一人一人の思いを大切に愛情豊かな援助を心がけます。」を掲げている。	○	一人暮らしで生活に不自由な認知症の方々を対象に地域の要望をあり、デイサービスをおこなっている。推進委員や関係事業所と情報交換をしながらネットワークを重視した展開を今後進めていきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員で理念の周知に取り組み日々の業務の中で口に出し、意識し実現に向けて取り組んでいる	○	管理者が理念の意味をしっかりと理解し、意識作りと行動力の発揮により、職員への理念達成のための方向性を具体的に示すこと。結果全職員に周知徹底が出来るものと思う。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	誰でもいつでも目のつく場所に理念を掲げ、家族へも広報誌等でお知らせしている。また行事の機会に言葉にし多くの方々に理念について理解が得られるよう取り組んでいる。	○	言葉や文字で伝えていく事と同じように、理念の実現に向けて実際に行動できるよう意識にて業務にあたる。
2. 地域との支えあい				
	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	地域行事に参加し交流を序々に深めている。一つのつながりから交流の輪が広がり、地域住民との関わりを多くもつよう取り組んでいる。行事や広報誌等で事業所を理解していただき、日常的に気軽に会話を交わすことができるよう感謝の気持ちや挨拶等を意識付けしている。	○	行事意外でも日常生活の中でお話ボランティア等で住民のかたが気軽に訪問できるような働きかけをしていく。沢山の住民の訪問により、当施設がもっと理解されていくのではないかとと思う。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
3. 理念を実現するための制度の理解と活用				
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	会議等で評価の意義やどのようにいかしていくか等の説明をしている。改善策の具体的な取り組みに努めているが、不十分な部分がある。	○	自己評価の内容を経験年数や、有資格者別に細かくチェックし全職員で話し合い、自己のレベルチェックに活用していく。
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に会議を開催しよい雰囲気の中で積極的な意見をいただきサービス提供につなげている。今年度は委員を増員しより多くの関わりの中からサービス向上を目指している。	○	会議に欠席した委員の方からも意見をいただけるよう資料をとどけた際に意見をいただく時間を設ける。
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	推進会議に村の関係者が毎回出席していただき、情報提供やサービス向上への意見等を積極的に出している。また日頃お互いに行き来したり連絡を取り合い情報の共有に努め、お互い連携で取り組む体制は整っていると思う。	○	地域全体で認知症を支えるという視点で、広報誌で施設をPRすると共に、自治体との連携強化を図る。
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修会を開き学ぶ機会をもったが、理解と活用への意識は中々難しい。	○	まだ理解はたりないと思う。今後も勉強の場を設け学んでいかなければならない。
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	研修報告等の中で虐待についてな何度か報告されている。職員もそのことを意識して入居者に接していると思うが、全職員が細かいところまでは理解しているとはいえないため今後は学びを多くし、今以上に虐待防止に取り組んでいく。	○	日々の業務の中で全職員が虐待の意味をしっかりと認識した中でサービス提供ができるよう、一丸となって虐待防止に努める。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	相手が理解できるようわかりやすく説明はしている。不明点や疑問点にはその都度説明し理解と納得していただくようつとめている。	契約内容について、確実に理解し知識を広め、質問等だされたときに、きちんと説明ができるようにする。
11	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々のコミュニケーションの中で意見や気持ちを聞きだすことに努め、職員全体で運営に反映できるよう取り組んでいる。	座談会にて意見の言える場を設けているほか、日常生活の中で対話等からも不満や思い等を引き出し、それを全職員で共有し運営に反映させていく。
12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	金銭管理、健康状態、日常の様子等は毎月、または随時管理者、担当者からおこなっている。また職員状況等についても毎月のお便りの中でお知らせしている。	○ 広報誌の発行を多くし、その中で施設状況や職員状況を随時お知らせしていきたい。
13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や苦情受付を説明書に明示し家族面	○ 意見が出しやすいようにアンケート形式にしている
14	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議、各棟の会議、各委員会の活動等で職員が意見を言える場を設けている。またそれを実践できるよう取り組みにつなげている。	意見で終わらせるのではなく、取り組み内容を実行していくことが大切と思う。
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者により良いサービス提供ができるよう職員に理解を求め、協力的に対応できている。協力的ではあるが負担がかかる場合がある。	○ 柔軟な対応は継続していきたいが、職員の負担も軽減できるよう体制の見直しをしていく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		
5. 人材の育成と支援			
17	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	○	研修希望は本人希望とそれぞれにあった研修会参加も必要。
18	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	○	大きな取り組みとしてではなく少しずつ短い時間からの交流を徐々に広げていければよいのではと思う。
19	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	○	日常的にその都度職員の意見を聞いている。職員の悩み、ストレス理解に努めている。休憩時間を確保できるよう声がけ促しをしている。
20	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>		健康診断の実施と日々の職員の健康面の配慮に努める。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ。安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居者、家族と直接面談の機会を設け信頼関係を築くことを意識しながらの対応をおこなっている。全職員が情報を共有する事を徹底していく。	
22	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時ニーズに対し何が必要か見極める。すぐに対応できることは実行し、時間が必要であれば職員間で情報を共有し、意見交換しながら方策を検討している。	
23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人の望みを実現するために家族からの情報収集を全職員で共有し、その人にとっての安心できるサービス提供に努めている。	今後も尊厳を基本と考え、ご本人の望みをかなえるために私達は代弁者として、ご家族との連絡を密にし、関係を深めながら、その人の安心できる支援に努めて生きたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の感情を否定することなく受け止め、理解し共感し、日々のケアに努めている。共に支えあいながら一緒に生活していると言うことを意識し、関係を築くことに努めている。	職員は介護職としての有るべき姿を意識しよりよい関係の築きに努めていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族との情報交換を密にし家族の思いや感情を共にしお互いに支えあう関係を築くことに努めている。		その入居者、家族に寄り添った関係作りを見極め、連絡調整しながらお互い心をつなぐ「家族の一員として入居者」を一緒に支えていく関係の構築に努めていく。
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居者本人の状況を伝え、家族の思いや感情を共にし、家族の役割を奪わないよう配慮する。		本人の思いを重視しながらも、家族状況等を考慮した関係作りに努める。
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者本人のこれまでの生活を理解し、馴染みの関係が途切れないよう、その機会や場面作りに努めそれを継続していく。	○	今後も一人一人の思いの把握に努めその中から、馴染みのものを見つけ出し触れ合う機会を設ける。
28	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士の関係を職員は把握している。双方、よりよい関係が保たれるよう配慮し働きかけをおこなっている。		日常生活において色々な場面での関わりを申し送り等で情報交換し、その中から生まれるきづきを大事に皆で共有し、入居者同士が良い関係が保たれるようサービス提供につなげていく。
29	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス終了後も行事等機会あれば関わりを持ち関係を大切にしている。		地域に一つしかない施設でもあり、地域に信頼されるためにも、サービス提供だけの関わりではない事を全職員が認識し、いつでも、どこでも、笑顔、あいさつを徹底していく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりんの思いや希望等、日々観察、把握に努め、それに向けた対応に努めている。難しい場合でも全職員で意見交換しながら対応に努めている。	日々の支援の中でも、話の傾聴に徹していく。
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを綿密に、本人や家族からの情報収集を綿密にし、その人の暮らしの把握に努めている。またプライバシーに配慮しながら、近隣の人からの情報収集もおこなう。	いろいろな情報を全職員で共有しあう。
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人一人の生活状況や生活の中での気づきを職員同士タイムリーで話合ったり、記録することにより、入居者の生活のすべてを把握するよう努めている。	生活全般を把握することによって、その人にはとって安心できる暮らしの実現のためのサービス提供ができるようにしていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	定期的なカンファレンスにおいて、ニーズ把握とそれに向けた支援方法を皆で意見交換しながら介護計画を作成している。	計画に沿ったサービス提供がまだまだできていない部分があるため、今後は管理者が中心となり、職員の意識統一をはかりながら、同じ目標設定の下にだれでも同じサービス提供ができるよう取り組む。
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	各担当により、経過明記し、入居者の状況により、見直し、継続等おこなっている。また状況変化あったときは随時カンファレンスにおいて検討し介護計画の見直しをおこなっている。	話し合いはおこなっているが、文章化を迅速にし、徹底していかなければならない。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者一人一人の日々の様子を記録し月末には、生活全般について気づきを含めて総合的に記録している。日々のケース記録は全職員が関わり、入居者の状況が把握できるものとしている。		生活状況記録は時間を追って入居者の状況、それを客観的にみての内容を今後も詳細に記録していく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の希望を考慮し、できるだけ希望に添う対応を取っている。それについての勤務交替等協力体制でおこなっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	各関係機関とは、行事あるごとに協力いただいている。ボランティアについては、広報誌等で呼びかけをおこなっている。年二回消防訓練や救急法（AEDの使用法）等実施		今後も関係の継続につとめ、違う視点でも地域資源に目を向けていく事を検討してみる
38	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域のケアマネジャーとは日頃情報交換を密におこなって、統一した支援提供ができるよう努力している。		。
39	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	最近では認知症のある在宅生活の方の支援についての情報共有をはかりながら、協力体制が序々できてきている。		今後は包括との連携を今以上に密なものとし、在宅で困っている認知症の方々の協力体制を確立していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	風間浦診療所、大間病院とこれまでの受診状況を把握し、必要に応じた受診支援をしている。地域医療機関と連携を大切に築いている。		今後も地域の医療機関とは良い関係を継続できるようにし、医療的分野での支援要請をしていく。
41	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	風間浦診療所の医師が認知症患者に大変理解があり、家族からの信頼もある。様々な相談に対し親身に助言をくださり、入居者が施設生活が継続できるよう支援ができています。		今後もこの信頼関係を継続できるように努め、入居者、家族の要望に沿う対応を診療所と協力体制で実現していきたい。
42	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員は入居者一人一人の状態把握に努めている。介護員からの状態確認や、入居者の日々の健康観察に努め、主治医と連絡調整しながら通院、服薬等で健康管理をおこなっている。		
43	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院前の施設での生活状況等を情報提供し、入居者が入院により、混乱が生じないよう医療機関との情報交換を綿密におこなっている。また入院中も職員が交代で面会し精神面での安定を図っている。退院後のインフォームドコンセントへの参加を実施している。		
44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けての対応を本人や家族、主治医と話し合いを持ち、意思統一を図る。全職員がそのことを周知しチームでの対応の徹底を図る		認知症の進行により、中々本人の意思確認が難しいところがあるが、段階的に本人の状況に寄り添った支援をチームが一つとなり、取組んでいきたい。
45	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人の思いや家族の思いを考え、施設として出来ること、出来ないことを明確にし、主治医と連携で取り組んでいく。		その時々々の状況に対応できるよう職員は、看護師を中心に色々な場面を想定し話し合いをおこなったり職員が混乱しないようマニュアルを作成していく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	本人の情報提供を十分行う。また前もって訪問したり、本人への説明もおこなっている。家族の不安や気持ちを受け止めながら協力すること伝える。	
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
47	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	本人のプライバシー自尊心を傷つけないよう言動には十分注意している。記録物の持ち出し禁止としている。	言葉使いの徹底を図る。
48	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	個人の状況を細かく把握していることからその時々への対応、声がけで自己決定の場を作っている。職員間の情報交換が頻繁におこなわれている。	
49	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	その本人に合ったペースでの生活を支援することを心がけている。	一人一人の思いの把握に今後も努めていく。
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
50	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	本人希望や状況にあった支援を柔軟におこなっている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の嗜好品を把握していることから本人の意思に添った食事提供をしている。可能な方には調理等準備を手伝っていただいている。		好みのものを購入を今後も継続。食事準備等でその人にとっての居場所の確保に努める。
52	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	以前は喫煙や飲酒の習慣のある入居者についても本人の意思や家族の希望により、今はその習慣がない。好みの飲食物については本人と買い物にでかけたり、職員が買ってきたりしている。		
53	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	それぞれの排泄状況にあわせて誘導や見守り支援を行い、出来るだけパットやおむつ外しに向けた自立を促す取り組みをしている。トイレ拒否があるときは、職員間で話し合い、本人に無理のないような支援方法を検討していく。		
54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人一人の入浴方法を把握し、計画的に進めるほかにその時々で柔軟な対応をしている。		するようにお風呂に自ら入ってもらえるよう色々な入浴剤でリラックス効果を促進するようにする。
55	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	その日の活動や日中の出来事等、疲労状態により、休息を促したり、本人の意志で自由にやすすんでいただきゆっくり出来るようない配慮している。		出来る限り、本人の意志を尊重し、リラックスできるような環境を整えていく。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人一人の生活歴を把握した中で、軽作業を進めてみたり、本人の望む活動ができるよう自発性を大事にした支援をする。それにより、活気のある生活がおくれると思う。		今後も作業することで生活にメリハリをつけ活気ある生活支援を進めていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は家族の希望にて施設管理の入居者が多いが、数人は本人の希望で小額を所持している。買い物等のお金の支払いは見守りにて本人がおこなっている。		
58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	そのときの状況や体調等を考慮しドライブや買い物等、外出支援を柔軟に対応している。		今後も入居者の希望に添って外出の機会を増やし気分転換を図っていく。
59	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年間の計画を立て、季節や天候を顧慮し家族の参加も促しながら実施している。		今年は一泊旅行を実施し、入居者が大変喜ばれた。今後も行きたい場所に出かける機会を作っていきたい。
60	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の状況や希望に応じて電話での対応をしている。家族や大切な人への年賀状を実施している。		状況に応じ今後も対応していく。
61	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも訪問できるよう柔軟に対応していることを伝え、家族とのコミュニケーションを図っている。お出迎え、お見送りを必ず行い、来て頂いたことへの感謝とまた来ていただくことへの願いを心を込めた挨拶の徹底している。		気軽に来ていただけるよう、全職員誠意をもって対応するし家族との関係作りに努める。
(4)安心と安全を支える支援				
62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員身体拘束の内容を理解し、その弊害についても理解し原則としておこなっていない。やむを得ずおこなう時はその理由や期間、方法を説明し理解していただくと共に書面にて同意を得る。拘束期間は詳細に記録し、原則として拘束は必要最小限とし、状況が安定したときはすぐに拘束解除をする。		拘束のない入居者本意の生活を実践していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、居室入り口や玄関は施錠していない。チャイムにて出入りを確認できるようにしている。		入居者の自由を奪わない生活を実践している。所在確認表の活用やチャイムの音に留意しながら今後も入居者の自由を奪わない支援をしていく。
64	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	一人一人のプライバシーを尊重しながら、職員間の申し送りの徹底や日常の声の掛け合い等で入居者の安全確保に努めている。		
65	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	置き場所の工夫やその都度本人への説明をしていくことで、まったくなくすことのないよう環境整備している。		
66	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	入居者の状況に応じ想定される事故に対し職員全員で検討し情報交換し防止に努めている。誤薬は服薬前に二人確認、声だし確認の徹底避難訓練は全職員参加により年2回実施し、常に危機感を持って業務にあたるよう取り組んでいる。		
67	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時や事故発生時の対応についてのマニュアル化がなされている。救急救命法は年1回実施AED取り扱い法も学んでいる。		
68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間、日中想定で年2回避難訓練を実施している。緊急時の地域協力の働きかけもおこなっている。非常時のために食料飲料水等を一定の場所に準備している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	全職員がその入居者に起こりうるリスクを把握すると共にそのリスクや防止策等について家族に説明している。本人の意志を尊重しながら、リスク回避の防止策等をその時々状況に添って家族に伝えながら家族の理解と協力を得ている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
70	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	入居者の疾病や体調について全職員が把握で毎日の健康管理につとめている。体調変化の際のバイタルチェックや看護師への報告、指示を仰ぐ等迅速におこなわれている。	○	看護師より、入居者におこり得る状態等早期発見できるよう症状についての説明を会議や日々のケアの中で伝達していくことを継続していく。
71	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時は職員2名のダブルチェックの徹底を図っている。飲み忘れないよう職員間声の掛け合いをおこなっている。薬の変更時は看護師より内容や副作用についての説明にて職員の周知につとめている。		
72	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	職員は便秘の原因とその及ぼす影響を理解しており水分量の把握や食事改善、運動、散歩、腹部マッサージ等で便秘予防に取り組んでいる。安易に薬にたよらないようにしている。	○	薬に頼らないよう、運動、散歩等にて便秘改善に取り組み、薬に頼らずに自然排便ができるよう今後も継続していく。運動内容を工夫していく。
73	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアの徹底に取り組んでいる。舌苔のある入居者は舌ブラシ使用にて口腔清潔にとりくんでいる。		
74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分食事摂取量を記録し食欲不振にて摂取量減少が確認された時は看護師状態報告し指示を仰ぐ。また代替品や栄養バランスを考慮した食事の工夫をしている。		入居者状態観察に努め、食事量の確保に全職員で取り組む。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	施設独自の感染予防マニュアル作成し、誰でも目につくように玄関に掲示している。施設内は塩素系消毒と感染経路の強いところの清掃に努めている。また職員個々の消毒スプレアの携帯、入居者の手洗い、うがいの励行と必要性の説明と確認に努めている。		引き続き、感染予防に全職員で取り組んでいく。
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒や、感染症防止のために毎日の基本的な清掃、消毒のほか、食器の熱湯消毒、エプロンの使い分け等行っている。また担当を決め定期的に細かいところまで管理している。食事の安全管理のために、一週間単位で、保管している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	毎日の玄関掃除により、気持ちよい空間作りに取り組んでいる。プランターや花壇整備によりホーム内外心地良い空間作りに努めている。		
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある居心地良い空間作りに配慮している。また入居者が手がけた作品を飾ることにより、満足感や次への意欲につなげるよう配慮している。		
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内入居者の希望は状況に合わせてソファの位置を移動するなどして思い思いに過ごせる工夫をしている。		入居者同士の関係も考慮し、集える場所の工夫をしていきたい。たとえば、畳のスペースを確保しそこで洗濯畳みや寝転んでくつろげる場所など、入居者が和気藹々と日々過ごせる場の工夫を今後もしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	本人が居心地よいように畳であったり、カーペ ットをしいたり工夫をしている。生活で使用して いた物品を持ち込んでいただいたり自由に自分の家 であるという意識になってくれるよう努めてい る。		テレビや自宅でしようしていた寝具等使用してい る入居者もいるが、本人の思いを尊重しながら、 家族への働きかけを今後もおこない、少しずつで も自分の物に囲まれ自分の家のように違和感な く生活していただくようつとめる。
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	全職員臭いに配慮し、換気には十分注意し窓の開 け閉め等おこなっている。また一日二回の温度、 湿度確認、記録し、日々の目安として管理に努め ている。日中は入居者の希望を含めて対応してい る。		入居者は体温調整が難しいところもあるため、職 員入居者の健康面を考慮しながら、心地よく過 ごせる今後も配慮していく。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境作り				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	床面バリアフリーになっているが、畳のところは 多少の段差がある。すべらない工夫はされてい る。行動範囲内には、手すりが取り付けられて いる。居室の入り口にも手すりを取り付けてい る。		
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	入居者の認知力を職員は把握し、一人一人がわか る私物や印などで失敗や混乱を防ぐ工夫がされて いる。一人一人の支援方法を統一することでス ムーズに生活できるよう努めている。		
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動でき るように活かしている	広い空間をレーションやリハビリ運動や、行事を 通して地域交流の場として広く活用している。ま た入居者が各棟を自由に行き来することで行動範 囲の広がりがあり、開放感を感じることができ る。畑、花壇で作業したり、ベンチに座り、日向 ぼっこや、花壇を眺めゆったりと思いいす過 ごせる場を設けている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・今年度発足した家族会ですが、今後いろいろな話し合いを持ちながら、家族との絆がより深まり、信頼関係を深め、互いに協力しながら入居者の支援をしていきたい。また職員活動として(接遇、リスク、広報、環境)委員会を設け、理念の実現に向けて、いろいろな話し合いや、活動をとおして、入居者がもっともっと安心して暮らせる環境、体制作りをしていきたいと考えます。地域の施設として、近隣との交流や地域の行事に参加していくことで事業所の存在と、認知症の人々を地域の方々に理解していただき、多くの方々に足を運んでいただくことと、施設を地域活用の場にしていければと考えます。地域住民に特別な場所ではなく、いつでも気軽に立ち寄れる所として、行事あるごとにアピールしながら、『親しまれるいこくま荘』を目指していきたいと思います。